

OPINION

中部経済新聞

ナビゲーター

オーストリアの研究開発(R&D)への取り組みは産業界、学术界、政府間の連携を促進するイノベーション・クラスターと技術ハブのネットワークによって支えられている。主要なイノベーション・クラスターは以下のとおりだ。

マイクロエレクトロニクスと半導体技術に焦点を合わせる「シリコンアルプス・クラスター」。eモビリティ、軽量化、自動運転に特化する「オートモティヴ・クラスター・オーストリア」。環境技術と再生可能エネルギー・ソリューションにおける世界

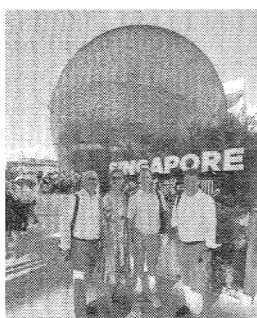
日本への期待
世界各地から

的リーダーである「グリーンテック・クラスター・シユタイアーマルク」。バイオテクノロジー、製薬、医療技術に注力する「ライフサイエンスクラスター・ウィーン」。

オーストリアの研究開発エコシステムは、手厚い税制優遇措置、EU資金プログラム、強力な官民連携の恩恵を受けている。ウィーンとグラーツは主要なイノベーション拠点として機能し、AI(人工知能)、ロボティクス、持続可能技術分野の国際的に有能な人材やスタートアップ企業を

新たな発展への布石

オーストリアから(下)



大阪・関西万博にて(筆者は右から2人目)

惹きつけている。これらのクラスターは、オーストリアをグローバルなイノベーション環境における競争力のある担い手として位置付け、長期的な成長と回復力を確保している。

オーストリアは、複数の分野で魅力的な投資機会を提供している。グリーンテクノロジーと再生可能エネルギーに関しては、風力・太陽光・水力発電の拡大、加えて循環型経済対応を提供している。中小企業から大企業向けのデジタル・トランスフォーメーション(DX)に

品製造が挙がる。先進製造とインダストリー4.0については、自動化、ロボティクス、スマートファクトリーソリューションがある。観光・宿泊関連では、高級アルプスリゾート、ウェルネスツーリズム、各種の持続可能な旅行コンセプトが存在する。金融サービスやフィンテックの分野では、デジタルバンキングとブロックチェーンイノベーションの拡大拠点としてのウィーンが該当する。

上のとおり、オーストリアの戦略的な立地は、熟練した労働力、強固な法的枠組みは、中東欧をターゲットとする投資家にとっての玄関口となつてい

とはいえオーストリアは岐路に立っている。高コスト、人口動態の変化、デジタル格差のような構造的課題がリスクをもたらす一方、その革新的なエコシステム、強固な法的枠組み、戦略的な立地は大きな機会を提供している。グリーンテクノロジー、DX、研究開発におけるリーダーシップを活用することで、オーストリアは次の10年間にわたる持続可能な成長を維持し、競争力のある欧州ビジネスハブとしての地位を維持できるはずである。

【フィリップ・グラフ(オーストリア連邦経済会議所理事、情報・コンサルティング部門長、リーム中産連)

(月曜日に掲載)